【えひめいやしの南予博２０１６の当町の取組みについて】

問 自主企画プログラムの申込状況について

答 9月14日現在で、食に関するもの、体験教室に関するもの、食と体験教室を組み合わせたもの等5団体からの申し込みとなっている。

問 実行委員会は発足しているのか。

答 7月8日に結成している。

問 どのようなイベント企画を考えているのか。

答 イベントは、「プレイベント」「サポートイベント」「セレモニーイベント」「広域コアイベント」「地域コアイベント」「自主企画イベント」などさまざまなイベントを開催予定である。

この方針に基づき、鬼北町ではテーマを「鬼の町づくり」とし、鬼に注目が集まる節分を皮切りに「鬼」をテーマにしたシリーズイベントを、期間を通して展開していく。その一つとして、2月上旬にどの地域よりもいち早く「地域コアイベント」として「鬼嫁コンテスト」に取り組むこととしている。

また、町内には年間を通して、地域企画イベントが開催されているので、そういったイベントの拡充にも取り組み、イベント終了後も機能する持続可能な取組みをしていく。

【当町の総合戦略策定に係るアンケート調査について】

問 アンケート用紙の回収率について

答 町内の全世帯を対象として、4,670件を発送し、そのうち29ｻﾝﾌﾟﾙの1,348件の回答があった。

問 分析はできたのか。また、結果は告示するのか。する場合はいつごろか。

答 アンケート調査の分析は終了しているが、現在アンケート調査結果が反映された総合戦略の素案を作成中であり、総合戦略とともに平成28年4月以降には公表できるものと考えている。

◆芝　照雄　議員

【えひめ国体開催に向けての今後の動向について】

問 現在の民泊協力会の数は何団体か。

答 9月14日現在の民泊協力会設置届け出数は、17団体である。

問 当町出身の国体出場選手は何人か。

答 愛媛県代表として、今年度開催される和歌山国体に出場する鬼北町在住の選手は、3名と把握している。ただし、鬼北町出身の方で、他の市町や他県からの国体出場については、広範囲に及ぶため、把握できていない。

【町発行の軽車両ナンバーについて】

問 町発行のナンバーを鬼北町独自に変えることはできないか。

答 「ご当地ナンバープレート」の導入は、「鬼のまちづくり」のＰＲの一つになるのではと考えており、すでに担当課において原版となる金型の作成費用、プレート1枚当たりの作成費用等と既存のナンバープレート作成費用との比較、原付登録台数での使用者見込みからの費用対効果、「ご当地ナンバープレート」導入によるＰＲ効果および「ご当地ナンバープレート」を導入している県内市町の導入後の状況等も勘案しながら、導入について検討をしている。

【鬼北町管内の道路標識銘板・掲示板について】

問 いまだに広見町の表示のままになっている道路標識について

答 ご指摘の道路標識については、愛媛県が設置、管理している標識と思われる。愛媛県に問い合わせたところ、案内標識板については町村合併時に修正しているが、支柱部に添付してある住所標記シールについては、一部未修正のものがあるため、順次修正していくとのことである。

問 町内各集会所に設置してある掲示板は何のためにあるのか。

答 平成12年度に愛媛県が土砂災害時の避難啓発のために設置したものである。愛媛県に問い合わせたところ、土砂災害ハザードマップ等を順次見直しているところであり、今後、各集会所管理者と協議のうえ、それらの掲示を行っていくとのことである。なお、掲示板下部に記載している名称についても、順次修正していくとのことである。

【各町内学校施設整備について】

問 広見中学校の修繕を、今後どのように考えているのか。

答 広見中学校の校舎は、近年雨漏りが発生し、今年度も、第1教棟の2階および3階と第2教棟への連絡通路の修繕を実施した。平成21年度に実施した屋上の防水シート張替工事では、破損個所はほとんどないが、横殴りの雨が降った場合に、横壁のクラックからの雨水浸入が考えられ、合わせて、給食配膳室天井、監理棟校長室付近の雨漏り修繕工事を、今年度早急に着手することとしている。いずれにせよ抜本的な対策が必要となっており、可能な限り早期に改築の検討に入りたい。

【児童クラブの取り扱いについて】

問 現在、各学年に何人通っているか、兄弟は何組いるのか。

答 夏休みを除いた小学校開校中の登録児童数は29名で、内訳は1年生が13名、2年生が9名、3年生が3名、4年生が3名、5年生が1名である。なお、兄弟での利用は2組となっている。また、夏休み期間の8月現在の登録児童数で言うと、1年生が18名、2年生が13名、3年生が8名、4年生が8名、5年生が2名、合計49名で、兄弟での利用は5組である。

【鳥獣害被害対策について】

問 鳥獣の生息地域の特定の調査はしたことがあるか。

答 サルについては民間の業者との連携により町内各所の生息地域、移動範囲等を調査し対策を講じている。今年度において、日吉父野川地区において、サルの捕獲檻を設置し、群れごと捕獲する計画で進めている。

シカおよびイノシシについては、行動範囲も広く生息地域を特定することは困難であるが、町内各所で猟銃および罠等で捕獲された個所の捕獲分布図を作成しており、ある程度の生息範囲は特定している。また、